

勤仕御扶持方

一日千石程宛
但五百石程も
二手ニ取候事

廿日より廿四日迄、日數五日ニ取候事、近來先四日ニ取申候、

不勤御扶持方

大廿五日より廿九日迄

大之月一日手形數
三百八拾枚ヅ

小廿五日より廿九日迄

小之月一日手形數
四百七拾枚ヅ

右ハ天明五午年ニ相極候事

〔淺草米廩舊例〕明和四亥年十月松平右近將監殿武元、被仰渡候御書付寫

一諸國御年貢納并御扶持渡第出役、毎月朝五半時急度場所取懸候様可致事、中

一御扶持渡之儀、極暑之節ハ朝五時より相渡候様可致事、

〔札差業要集中〕三季御切米御扶持方渡リ御藏方御定法荒増左に

一月々御扶持方勤仕は毎月廿日玉入御定日、翌廿一日より御米渡リ、玉は五日目廿四日振切、翌

廿五日不勤玉入、三日目廿七日振切、但廿日後、御書替濟之分は日々追玉入、勤仕玉振切後ハ不勤

玉先に相成、不勤玉振切後御書替之分は勤仕不勤共、翌月六日、十二日、十八日、右御定日前御書替

濟之分御米渡リ、其後御書替濟之分は、御張付呼出し渡リ、但御書替御裏判有之、定御役扶持手形

は月次御扶持方江加、玉入御米渡リ同斷之御仕法之事、中

一御扶持方渡リ方、毎年十二月は十日勤仕玉入御定日に而、翌十一日より御米渡リ玉は五日目

振切、翌日不勤玉入、三日目振切、

但勤仕不勤共、十二月分御扶持方後レ日は、十二月二日九日御米渡リ、正月分御扶持方後レ日、

十二月廿二日廿五日御米渡リ、其後は御帳付呼出し渡リ、翌正月迄、後レ候御扶持方は、正月十

二日十八日御米渡リ、